

令和3年度（2021年度）事業者防災訓練 訓練課題対応資料

1. 原子力防災訓練で確認された課題について

令和4年1月28日に実施した原子力防災訓練において確認された問題点／課題について、下記のカテゴリーに分類し、それぞれに対する原因分析、対策案を表-1に示す。

(カテゴリー分類)

- (1) 緊急対策本部活動訓練
- (2) 応急措置（拡大防止措置）訓練

表-1. 令和3年度（2021年度）原子力防災訓練で確認された課題

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策（案）
緊急対策本部活動訓練	緊急対策本部、ERC対応における情報共有、伝達の改善	事象発生時の初期情報が早期に緊急対策本部内で共有され、ERCプラント班へ円滑に情報伝達されている。	1	事象発生時の初期情報について下記の問題点、課題があった。 (1)事象発生後の初めの通報先電話番号（訓練通報先）を間違えた。 (2)ERC対応専任者が電源の有無、警報発生の有無等のプラント状態の状況をERCプラント班に迅速に報告できなかった。	(1)訓練事務局による事前確認が不足していた。 (2) ①事象発生時の初期情報が緊急対策本部内で整理できていなかった。 ②緊急対策本部からERC対応専任者へ情報伝達できなかった。	(1)訓練に係る通話環境設定・通報先について、書面等により事前確認し訓練参加者に確実に共有する。 (2) ①事象発生時に直ちに集約すべき初期情報をホワイトボード等で整理、共有する仕組みを構築する。 ②上記で整理された情報をERC対応専任者ホワイトボードの写真、COP等により的確に共有する。
	社外通報の改善	現場からの情報収集やCOP作成と並行し、第25条報告が適時実施されている。	2	SE/GE該当事象発生後の対応状況が適切なタイミングで第25条報告として報告されなかった。	①特定事象発生後の措置も第10条通報様式を用いて続報（FAX第4報）を作成していた。 ②COP6（事故収束対応シート）の戦略について対応の進捗状況の共有が不足し、適切なタイミングで通報できなかった。	①使用すべき通報様式の再周知とFAX通報に添付する付属資料について再検討する。（可能な限り、ERC保管資料と同一の資料を用いる等） ②現場からの情報収集やCOP作成と並行し、対応の概要が第25条報告に適宜反映されるよう対策本部活動の見直しを検討実施する。（COP6（事故収束対応シート）の対応実績等を通報FAXに反映する等）

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策（案）
緊急対策本部活動訓練（続き）	事故拡大防止対策の検討、実施、報告の改善	COP6（事故収束対応シート）の策定内容について緊急対策本部内で協議、共有し、進捗管理されている。	3	COP6（事故収束対応シート）の活用について下記の問題点があった。 (1)各対応内容の進捗（実績時間、変更内容）がタイムリーに反映されなかった。 (2)建屋外への放射性物質放出に対する閉じ込め措置に活動が特化し、漏えい源となる建屋内部の破損したウラン取扱設備に対する具体的な処置への検討が不十分であった。 (3)特定事象発生後の応急措置として、給排気設備の停止判断までに時間を要した。それにより、ERCプラント班への状況説明、対応策の判断根拠の説明に窮した。	(1)(2)緊急対策本部で活動する各防災組織のCOP6（事故収束対応シート）への関わりが不足していた。 (3)現場から得られた情報、報告内容が緊急対策本部内で整理しきれず、対応策の協議に時間を要した。	(1)(2)COP6（事故収束対応シート）の緊急対策本部内での共有・活用方法を再検討し、既存の各防災組織の活動要領とは別に、全体活動としての「緊急対策本部活動要領（仮称）」を制定し、防災組織全体を対象にした教育を実施する。 (3)各防災組織による図面・系統図等（ERC保管資料と同資料）の活用、より共有しやすい時系列情報の記録（クロノロジー共有システムへの登録）方法への見直しを行う。必要に応じて、ERC対応マニュアルの見直しも行う。
		ERC対応専任者によるERCプラント班への情報提供が、ERC保管資料をうまく活用し行われている。	4	ERC対応専任者からの説明にERC保管資料がうまく活用されなかった。	ERC保管資料は、ERC対応専任者の説明用資料としての位置付けが強く、そもその戦略立案の検討において、各防災組織が図面・系統図等が活用しきれていないため。	緊急対策本部内で図面・系統図等（ERC保管資料と同資料）をより積極的に活用して、その内容をERC対応専任者と共有する。必要に応じてERC保管資料の内容見直しを行う。
応急措置（拡大防止措置）訓練	現場対応能力の向上	放射性物質の汚染範囲を速やかに推定し、回収及び除染に必要な防護具を選定し、正しく脱着されている。	5	サーベイメータ、ダストサンプラ等の現場で使用する機器の動作チェックは、現地の測定場所に着いてからではなく、資機材を準備した出発前の段階で行うべきであった。測定場所に到着してから動作不良に気付いたようでは、応急措置に時間を要してしまう。	平常時と異なり、非常時であることを踏まえた活動となっておらず、平常時の使用方法が習慣付いていたため。	個別訓練等で周知徹底するとともに、他の機器についても水平展開する。 （災害対策支援拠点に持ち運ぶ機器類等）